

表 29 2 回目の要介護度別認知症割合（全体：N=16,156）

	認知症なし		認知症		計	
	N	%	N	%	N	%
非該当	18	78.3	5	21.7	23	100
要支援	2584	78.9	689	21.1	3273	100
要介護1	3667	63.6	2099	36.4	5766	100
要介護2	1746	47.8	1910	52.2	3656	100
要介護3	872	42.7	1171	57.3	2043	100
要介護4	417	39.3	643	60.7	1060	100
要介護5	129	38.5	206	61.5	335	100
合計	9433	58.4	6723	41.6	16156	100

(3) 3 回目の認知症の有症割合の変動

3 回目の要介護高齢者の認知症の有症割合は、44.9%で初回よりも、2 回目よりも増加していた。要介護度別にみると、「要介護 5」が 212 名 (63.3%)、「要介護 4」が 656 名 (61.9%)、「要介護 3」が 1,215 名 (59.5%)、「要介護 2」が 2,021 名 (55.3%)、「要介護 1」が 2,303 名 (39.9%)、「非該当」が 8 名 (34.8%)、「要支援」が 831 名 (25.4%) と続いた。

このうち、有症割合が最も低かったのは、要支援で 25.4%であった。要支援も 2 回目の 21.1%から増加し、非該当は、21.7%から 34.8%とさらに増加の割合が大きかった。次いで、要介護 1 も 36.4%から 39.9%と増加し、これも初回よりも 2 回目よりも高い割合であった。要介護 2 も初回の 49.8%から、52.2%、さらに 55.3%と増加していた。要介護 3 は、2 回目に 57.9%から 57.3%、要介護 4 は、61.7%から 60.7%と、要介護 5 は 65.4%から 61.5%と減少していたが、3 回目は、それぞれ 59.5%、61.9%、63.3%と増加していた。しかし、要介護 5 だけは、初回の認知症の有症割合よりは、3 回目のほうが低くなっていた。

表 30 3 回目の要介護度別認知症割合 (全体 : N=16,156)

	認知症なし		認知症		計	
	N	%	N	%	N	%
非該当	15	65.2	8	34.8	23	100
要支援	2442	74.6	831	25.4	3273	100
要介護1	3463	60.1	2303	39.9	5766	100
要介護2	1635	44.7	2021	55.3	3656	100
要介護3	828	40.5	1215	59.5	2043	100
要介護4	404	38.1	656	61.9	1060	100
要介護5	123	36.7	212	63.3	335	100
合計	8910	55.1	7246	44.9	16156	100

(4) 4 回目の認知症割合の変動

4 回目の要介護高齢者の認知症の有症割合は、48.8%で初回、2 回目、3 回目よりも高かった。要介護度別にみると、「要介護 4」が 702 名 (66.2%)、「要介護 5」が 213 名 (63.6%)、「要介護 3」が 1,283 名 (62.8%)、「要介護 2」が 2,149 名 (58.8%)、「要介護 1」が 2,553 名 (44.3%)、「非該当」が 10 名 (43.5%)、「要支援」が 979 名 (29.9%) と続いた。

このうち、有症割合が最も低かったのは、要支援で 29.9%であった。非該当は、43.5%と要支援よりも認知症割合は、高かった。次いで、要介護 1 は、44.3%を示し、初回から、漸次、増加していた。要介護 2 も初回の 49.8%から、52.2%、55.3%、58.8%と増加していた。要介護 3 は、2 回目に 57.9%から 57.3%減少したが、3 回目は 59.5%、4 回目は、62.8%と 6 割をこえ、増加していた。要介護 4 は、61.7%から 60.7%と減少したが、3 回目は 61.9%、要介護 5 は 65.4%から 61.5%と減少していたが、3 回目は、それぞれ 59.5%、61.9%、63.3%と増加し、4 回目は 66.2%と高くなっていた。要介護 5 も 3 回目より高く 63.6%となっていたが、要介護 5 だけは、初回の認知症の有症割合が他の認定時点より高い割合を示していた。

表 31 4 回目の要介護度別認知症割合 (全体 : N=16,156)

	認知症なし		認知症		計	
	N	%	N	%	N	%
非該当	13	56.5	10	43.5	23	100
要支援	2294	70.1	979	29.9	3273	100
要介護1	3213	55.7	2553	44.3	5766	100
要介護2	1507	41.2	2149	58.8	3656	100
要介護3	760	37.2	1283	62.8	2043	100
要介護4	358	33.8	702	66.2	1060	100
要介護5	122	36.4	213	63.6	335	100
合計	8267	51.2	7889	48.8	16156	100

第5章 要介護認定基準時間及び中間評価項目得点の経年的変化の比較

1. 要介護認定基準時間の経年的変化

要介護認定基準時間について、初回の認定結果（二次判定）を基に、初回から4回目までの平均要介護認定基準時間の推移をみた。この結果、非該当から要介護2までの要介護高齢者は、初回から4回目にかけて、漸次、要介護認定基準時間が増加する傾向が示されたが、要介護3から5までの要介護高齢者は、初回の要介護認定基準時間が最も長く、2回目、3回目、4回目の時間よりも長くなっていた。

また、要介護3は、2回目の要介護認定基準時間が最も短く、3回目、4回目と長くなっていたが、要介護度4と5では、3回目の要介護認定基準時間が最も短くなっており、かった。

初回に非該当だった高齢者は、28.7分であったが、2回目は41.2分、3回目は44.7分という要介護1に相当する時間になっていた。4回目は、要介護2相当の53.0分となっていた。

初回に要支援だった高齢者は、27.8分であったが、2回目32.0分、3回目34.7分、4回目38.5分となり、要介護1に相当する時間になっていた。

初回に、要介護1だったものは、36.2分、2回目40.3分、3回目43.9分、4回目48.6分となり、要介護1に相当する時間になっていた。

初回に要介護2であったものは、54.0分だったが、2回目54.1分、3回目は57.7分、62.8分とすべて4回目まで要介護2であった。

初回に要介護3であったものは、初回は、75.5分で要介護3であったが、2回目は65.3分、3回目も67.7分で要介護2相当になり、4回目は72.0分であったので、要介護3となっていたが、初回から2回目、3回目は、要介護度は低くなっていた。

初回に要介護4であったものは、初回は、98.7分で要介護4であったが、2回目は79.0分と短くなり、3回目も78.0分とさらに短くなり、要介護3相当となる。4回目は80.8分で3回目よりも長くなるが、要介護度としては、3レベルとなっていた。

初回に要介護5の者は、123.3分と初回はかなり長い時間が示されていたが、2回目は83.6分と要介護3であり、3回目は79.9分と同様に要介護3相当ではあるが、さらに時間は短くなっていた。4回目には、81.9分と少し長くなるが、要介護3相当であった。

以上のように初回の認定結果が、要介護3、4、5という多くの介護の手間が必要と認定された高齢者らは、2回目でかなり時間が短くなり、その多くは、要介護度が低くなる傾向があることがわかった。

表 32 要介護認定区分と要介護認定基準時間

平成 15 年 3 月まで	
要支援	要介護認定基準時間が 30 分未満であって・要介護認定基準等時間が 25 分以上または間接生活介助、機能訓練関連行為の2分野の要介護認定等基準時間の合計が 10 分以上
要介護 1	要介護認定基準時間が 30 分以上 50 分未満
要介護 2	要介護認定基準時間が 50 分以上 70 分未満
要介護 3	要介護認定基準時間が 70 分以上 90 分未満
要介護 4	要介護認定基準時間が 90 分以上 110 分未満
要介護 5	要介護認定基準時間が 110 分以上
平成 15 年 4 月から	
要支援	要介護認定基準時間が 25 分以上 32 分未満
要介護 1	要介護認定基準時間が 32 分以上 50 分未満
要介護 2	要介護認定基準時間が 50 分以上 70 分未満
要介護 3	要介護認定基準時間が 70 分以上 90 分未満
要介護 4	要介護認定基準時間が 90 分以上 110 分未満
要介護 5	要介護認定基準時間が 110 分以上

表 33 要介護認定基準時間の経年的変化

		初回	2回目	3回目	4回目
非該当 (N=23)	平均値	28.7	41.2	44.7	53.0
	標準偏差	11.3	20.3	23.1	29.6
	最小値	24	25	24	24
	最大値	79	90	94	124
要支援 (N=3,273)	平均値	27.8	32.0	34.7	38.5
	標準偏差	4.5	10.7	14.1	19.0
	最小値	22	23	23	23
	最大値	60	132	152	156
要介護 1 (N=5,766)	平均値	36.2	40.3	43.9	48.6
	標準偏差	7.8	15.5	19.5	23.8
	最小値	23	22	23	23
	最大値	84	142	146	162
要介護 2 (N=3,656)	平均値	54.0	54.1	57.7	62.8
	標準偏差	12.2	20.2	23.1	25.9
	最小値	23	24	24	23
	最大値	126	152	167	148
要介護 3 (N=2,043)	平均値	75.5	65.3	67.7	72.0
	標準偏差	15.0	22.4	24.8	27.3
	最小値	24	24	23	24
	最大値	153	147	148	163
要介護 4 (N=1,060)	平均値	98.7	79.0	78.0	80.7
	標準偏差	13.9	23.5	25.1	26.9
	最小値	25	25	24	25
	最大値	156	165	159	159
要介護 5 (N=335)	平均値	123.3	83.6	79.9	81.9
	標準偏差	13.9	23.1	26.4	27.1
	最小値	83	28	29	27
	最大値	165	166	148	144
合計 (N=16,156)	平均値	49.4	48.3	51.2	55.5
	標準偏差	25.0	22.8	24.8	27.6
	最小値	22	22	23	23
	最大値	165	166	167	163

2.要介護高齢者の状態を示す中間評価項目得点（第1～7群）の経年的変化

(1) 中間評価項目得点の推移（第1群：麻痺・拘縮）

初回のデータに基づいて算出された中間評価項目得点が2回目～4回目までに、どのように変化するかを分析した。

「第1群：麻痺・拘縮」の中間評価項目得点の全体の平均値は、初回84.1点、2回目83.0点、3回目は82.2点、4回目は80.6点と初回から4回目にかけて減少していることから状態としては悪化しているものと推察された。

また、要介護度別には、初回に非該当であった高齢者は、最初93.5点と高い得点であるが、2回目は90.1点と低下するが、2回目までは高い得点であった。3回目83.9点、さらに4回目で82.6点と示され、漸次、低下する傾向が示されていた。

初回が要支援で得点が91.1点であった高齢者らは、2回目に89.2点と低下し、3回目も88.2点、4回目は86.9点と漸次、低下していた。

初回が要介護1で86.2点の高齢者らも2回目に85.0点と低下し、3回目も84.0点と低下し、4回目は82.7点と要支援と同様に漸次、低下していた。

初回が要介護2で82.8点を示した高齢者らは、2回目には、81.6点と低下、3回目には81.3点と低下し、4回目は79.4点と、認定回数が増えるにしたがって低下していた。

初回が要介護3で79.1点の高齢者らは、2回目は78.7点と低下し、3回目77.7点、4回目も75.5点と低下していた。

初回が要介護4で70.9点の高齢者らは、2回目も70.9点と変化がなく、3回目には69.6点とわずかに低下し、4回目も67.4点と低下する傾向が示された。

初回が要介護5の高齢者は、62.4点と低い得点であった。しかし、2回目には69.4点と上昇し、さらに3回目は69.4点と変化なしで4回目に、若干低下し、67.0点となっていた。

以上のように、要介護4、5を除くと認定回数が増えるにしたがって、中間評価項目得点も減少していた。

さらに、認定時点における要介護度間の中間評価項目得点を比較した結果、初回においては、非該当と要支援、非該当と要介護1、非該当と要介護2の間には有意差はなかった。2回目においては、非該当と要支援、非該当と要介護1、非該当と要介護2、非該当と要介護3、要介護4と要介護5の間には有意差はなかった。3回目においては、非該当と要支援、非該当と要介護1、非該当と要介護2、非該当と要介護3、要介護4と要介護5の間には有意差はなかった。4回目においては、非該当と要支援、非該当と要介護1、非該当と要介護2、非該当と要介護3、要介護4と要介護5には有意差はなかった。

このように「第1群：麻痺・拘縮の得点」は、初回から4回目までのすべての時点の認定時において非該当と要支援の間、非該当と要介護1の間、非該当と要介護2、非該当と要介護3の間には、有意な差はなかった。

表 34 中間評価項目得点（第1群：麻痺・拘縮）の経年的推移

		初回	2回目	3回目	4回目
非該当 (N=23)	平均値	93.5	90.1	83.9	82.6
	標準偏差	9.2	12.0	13.5	16.7
	最小値	69.8	61.5	52	47.6
	最大値	100	100	100	100
要支援 (N=3,273)	平均値	91.1	89.2	88.2	86.9
	標準偏差	11.6	12.7	13.6	14.5
	最小値	0	0	0	0
	最大値	100	100	100	100
要介護1 (N=5,766)	平均値	86.2	85.0	84.0	82.7
	標準偏差	15.8	16.6	17.3	18.3
	最小値	0	0	0	0
	最大値	100	100	100	100
要介護2 (N=3,656)	平均値	82.8	81.6	81.3	79.4
	標準偏差	19.8	20.3	20.2	21.6
	最小値	0	0	0	0
	最大値	100	100	100	100
要介護3 (N=2,043)	平均値	79.1	78.7	77.7	75.5
	標準偏差	21.5	21.9	22.9	23.9
	最小値	0	0	0	0
	最大値	100	100	100	100
要介護4 (N=1,060)	平均値	70.9	70.9	69.6	67.4
	標準偏差	26.0	25.8	27.0	28.4
	最小値	0	0	0	0
	最大値	100	100	100	100
要介護5 (N=335)	平均値	62.4	69.4	69.4	67.0
	標準偏差	28.6	26.1	26.5	26.9
	最小値	0	0	0	0
	最大値	100	100	100	100
合計 (N=16,156)	平均値	84.1	83.0	82.2	80.6
	標準偏差	19.0	19.2	19.7	20.9
	最小値	0	0	0	0
	最大値	100	100	100	100

表 35 認定時点別中間評価項目得点（第1群：麻痺・拘縮）の分散分析結果

		平方和	自由度	平均平方	F 値	P
初回	グループ間	590228.9	6	98371.5	302.122	0.00**
	グループ内	5258140.1	16149	325.6		
	合計	5848369.0	16155			
2回目	グループ間	410632.7	6	68438.8	199.606	0.00**
	グループ内	5536991.7	16149	342.9		
	合計	5947624.4	16155			
3回目	グループ間	403045.9	6	67174.3	183.964	0.00**
	グループ内	5896806.9	16149	365.1		
	合計	6299852.8	16155			
4回目	グループ間	459725.5	6	76620.9	187.864	0.00**
	グループ内	6586407.5	16149	407.9		
	合計	7046133.1	16155			

表 36 認定時別中間評価項目得点（第1群：麻痺・拘縮）の多重比較：有意差が生じた要介護度の組み合わせ

			P				P		
初回	非該当	⇔	要介護3	0.00**	3回目	非該当	⇔	要介護4	0.01*
	非該当	⇔	要介護4	0.00**		非該当	⇔	要介護5	0.01*
	非該当	⇔	要介護5	0.00**		要支援	⇔	要介護1	0.00**
	要支援	⇔	要介護1	0.00**		要支援	⇔	要介護2	0.00**
	要支援	⇔	要介護2	0.00**		要支援	⇔	要介護3	0.00**
	要支援	⇔	要介護3	0.00**		要支援	⇔	要介護4	0.00**
	要支援	⇔	要介護4	0.00**		要支援	⇔	要介護5	0.00**
	要支援	⇔	要介護5	0.00**		要介護1	⇔	要介護2	0.00**
	要介護1	⇔	要介護2	0.00**		要介護1	⇔	要介護3	0.00**
	要介護1	⇔	要介護3	0.00**		要介護1	⇔	要介護4	0.00**
	要介護1	⇔	要介護4	0.00**		要介護1	⇔	要介護5	0.00**
	要介護1	⇔	要介護5	0.00**		要介護2	⇔	要介護3	0.00**
	要介護2	⇔	要介護3	0.00**		要介護2	⇔	要介護4	0.00**
	要介護2	⇔	要介護4	0.00**		要介護2	⇔	要介護5	0.00**
	要介護2	⇔	要介護5	0.00**		要介護3	⇔	要介護4	0.00**
	要介護3	⇔	要介護4	0.00**		要介護3	⇔	要介護5	0.00**
要介護3	⇔	要介護5	0.00**						
要介護4	⇔	要介護5	0.00**	4回目	非該当	⇔	要介護4	0.01*	
					非該当	⇔	要介護5	0.01*	
2回目	非該当	⇔	要介護4		0.00**	要支援	⇔	要介護1	0.00**
	非該当	⇔	要介護5		0.00**	要支援	⇔	要介護2	0.00**
	要支援	⇔	要介護1		0.00**	要支援	⇔	要介護3	0.00**
	要支援	⇔	要介護2		0.00**	要支援	⇔	要介護4	0.00**
	要支援	⇔	要介護3		0.00**	要支援	⇔	要介護5	0.00**
	要支援	⇔	要介護4		0.00**	要介護1	⇔	要介護2	0.00**
	要支援	⇔	要介護5		0.00**	要介護1	⇔	要介護3	0.00**
	要介護1	⇔	要介護2		0.00**	要介護1	⇔	要介護4	0.00**
	要介護1	⇔	要介護3	0.00**	要介護1	⇔	要介護5	0.00**	
	要介護1	⇔	要介護4	0.00**	要介護2	⇔	要介護3	0.00**	
要介護1	⇔	要介護5	0.00**	要介護2	⇔	要介護4	0.00**		
要介護2	⇔	要介護3	0.00**	要介護2	⇔	要介護5	0.00**		

要介護 2	⇔	要介護 4	0.00**	要介護 3	⇔	要介護 4	0.00**
要介護 2	⇔	要介護 5	0.00**	要介護 3	⇔	要介護 5	0.00**
要介護 3	⇔	要介護 4	0.00**				
要介護 3	⇔	要介護 5	0.00**				

表 37 認定ごとの中間評価項目得点（第 1 群：麻痺・拘縮）の多重比較：有意な差が生じなかった要介護度の組み合わせ

			P				P		
初回	非該当	⇔	要支援	1.00	3回目	非該当	⇔	要支援	1.00
	非該当	⇔	要介護 1	1.00		非該当	⇔	要介護 1	1.00
	非該当	⇔	要介護 2	0.10		非該当	⇔	要介護 2	1.00
2回目	非該当	⇔	要支援	1.00		非該当	⇔	要介護 3	1.00
	非該当	⇔	要介護 1	1.00		要介護 4	⇔	要介護 5	1.00
	非該当	⇔	要介護 2	0.60		4回目	非該当	⇔	要支援
	非該当	⇔	要介護 3	0.07	非該当		⇔	要介護 1	1.00
要介護 4	⇔	要介護 5	1.00	非該当	⇔		要介護 2	1.00	
				非該当	⇔		要介護 3	1.00	
						要介護 4	⇔	要介護 5	1.00

(2) 中間評価項目得点の推移（第 2 群：移動等）

「第 2 群：移動等」の中間評価項目得点の全体の平均値は、初回は 80.5 点、2 回目は 81.1 点、3 回目は 78.8 点、4 回目は 74.7 点と他の群に比較すると高い得点であり、初回から 2 回目には増加していた。しかし、2 回目から 4 回目にかけて減少する傾向が見られた。

また、初回の要介護度別には、非該当だった高齢者の場合には、初回 97.2 点、2 回目 86.5 点、3 回目 85.2 点、4 回目 81.1 点と減少し、移動の能力が低下していると推察された。

要支援だった高齢者の場合には、初回 93.1 点、2 回目 90.6 点、3 回目 89.0 点、4 回目 85.8 点と減少し、非該当と同様に、認定を重ねるにしたがって移動の能力が低下しているものと推察された。

要介護 1 だった高齢者も初回 88.1 点、2 回目 86.1 点、3 回目 83.6 点、4 回目 80.0 点と減少し、非該当と同様に、認定を重ねるにしたがって移動の能力が低下しているものと推察された。要介護 2 だった高齢者も初回 80.2 点、2 回目 79.8 点、3 回目 76.6 点、4 回目 71.6 点と減少し、非該当と同様に、認定を重ねるにしたがって移動の能力が低下しているものと推察された。

初回が要介護 3 だった高齢者は、初回 68.5 点であるが、2 回目は 71.7 点と高くなっていた。しかし、3 回目は、69.0 点と減少し、4 回目も 63.9 点とさらに減少しており、2 回目に若干、向上するが、再び、低下してしまうというパターンが示された。

初回が要介護 4 だった高齢者は、初回 42.3 点とかなり低い、2 回目は 56.7 点と高くなる。しかし、3 回目は 55.7 点と減少し、4 回目も 51.8 点と減少するが、初回よりは高い得点を示していた。

初回が要介護 5 だった高齢者は、初回が 21.5 点とかなり低い、2 回目には、49.3 点と 2 倍以上に増加し、3 回目も 50.9 点と上昇していた。4 回目は、低下し 48.3 点を示してい

たが、初回よりも、かなり高い得点であった。

このように、要支援から要介護 2 までは、すべて初回から 4 回目まで漸次、得点は減少していたが、要介護 3～5 は、すべて初回が最も低い得点であった。

さらに、認定時点別要介護度別の中間評価項目得点について一元配置分散分析を行ったところ、1 回から 4 回の全ての認定の中間評価項目得点間には、統計的に有意な差が見られた。また、認定時点における要介護度間の中間評価項目得点を比較した結果、初回においては、非該当と要支援の間、非該当と要介護 1 の間では有意差はなかった。2 回目においては、非該当と要支援の間、非該当と要介護 1 の間、非該当と要介護 2 の間には有意差はなかった。3 回目においても 2 回目と同様に、非該当と要支援の間、非該当と要介護 1 の間、非該当と要介護 2 の間には有意差はなかった。4 回目においては、非該当と要支援の間、非該当と要介護 1 の間、非該当と要介護 2 の間、要介護 4 と要介護 5 の間には有意な差はなかった。

このように「第 2 群：移動等の得点」においては、初回から 4 回目までのすべての時点の認定時において非該当と要支援、非該当と要介護 1 の間には、有意な差はなかった。

表 38 中間評価項目得点の経年的推移（第 2 群：移動等）

		初回	2回目	3回目	4回目
非該当 (N=23)	平均値	97.2	86.5	85.2	81.1
	標準偏差	5.3	13.1	12.2	19.2
	最小値	83.4	55.2	56.6	26.3
	最大値	100	100	100	100
要支援 (N=3,273)	平均値	93.1	90.6	89.0	85.8
	標準偏差	7.7	11.0	12.8	16.8
	最小値	53.7	7.8	0	0
	最大値	100	100	100	100
要介護 1 (N=5,766)	平均値	88.1	86.1	83.6	80.0
	標準偏差	10.3	13.6	16.4	20.3
	最小値	35.7	0	0	0
	最大値	100	100	100	100
要介護 2 (N=3,656)	平均値	80.2	79.8	76.6	71.6
	標準偏差	14.8	17.4	20.4	24.5
	最小値	7.8	0	0	0
	最大値	100	100	100	100
要介護 3 (N=2,043)	平均値	68.5	71.7	69.0	63.9
	標準偏差	21.1	21.7	23.8	27.0
	最小値	0	0	0	0
	最大値	100	100	100	100
要介護 4 (N=1,060)	平均値	42.3	56.7	55.7	51.8
	標準偏差	25.9	27.0	28.2	30.1
	最小値	0	0	0	0
	最大値	100	100	100	100
要介護 5	平均値	21.5	49.3	50.9	48.3

(N=335)	標準偏差	20.6	28.9	29.3	30.8
	最小値	0	0	0	0
	最大値	97.2	100	100	100
合計 (N=16,156)	平均値	80.5	81.1	78.8	74.7
	標準偏差	21.2	19.6	21.4	24.8
	最小値	0	0	0	0
	最大値	100	100	100	100

表 39 認定ごとの中間評価項目得点（第2群：移動等）の分散分析結果

		平方和	自由度	平均平方	F 値	P
初回	グループ間	3868330.0	6	644721.7	3090.47	0.00**
	グループ内	3368946.0	16149	208.6		
	合計	7237276.0	16155			
2回目	グループ間	1597428.2	6	266238.0	938.502	0.00**
	グループ内	4581212.0	16149	283.7		
	合計	6178640.2	16155			
3回目	グループ間	1518443.0	6	253073.8	693.454	0.00**
	グループ内	5893522.4	16149	364.9		
	合計	7411965.4	16155			
4回目	グループ間	1635524.7	6	272587.4	531.956	0.00**
	グループ内	8275150.4	16149	512.4		
	合計	9910675.1	16155			

表 40 認定ごとの中間評価項目得点（第2群：移動等）の多重比較：有意な差が生じた要介護度の組み合わせ

図 10 中間評価項目得点の経年的推移（第2群：移動等）

		P			P		
初回	非該当	要介護 2	0.00**	3回目	非該当	要介護 3	0.00**
	非該当	要介護 3	0.00**		非該当	要介護 4	0.00**
	非該当	要介護 4	0.00**		非該当	要介護 5	0.00**
	非該当	要介護 5	0.00**		要支援	要介護 1	0.00**
	要支援	要介護 1	0.00**		要支援	要介護 2	0.00**
	要支援	要介護 2	0.00**		要支援	要介護 3	0.00**
	要支援	要介護 3	0.00**		要支援	要介護 4	0.00**
	要支援	要介護 4	0.00**		要支援	要介護 5	0.00**
	要支援	要介護 5	0.00**		要介護 1	要介護 2	0.00**
	要介護 1	要介護 2	0.00**		要介護 1	要介護 3	0.00**
	要介護 1	要介護 3	0.00**		要介護 1	要介護 4	0.00**
	要介護 1	要介護 4	0.00**		要介護 1	要介護 5	0.00**

	要介護 1	要介護 5	0.00**		要介護 2	要介護 3	0.00**
	要介護 2	要介護 3	0.00**		要介護 2	要介護 4	0.00**
	要介護 2	要介護 4	0.00**		要介護 2	要介護 5	0.00**
	要介護 2	要介護 5	0.00**		要介護 3	要介護 4	0.00**
	要介護 3	要介護 4	0.00**		要介護 3	要介護 5	0.00**
	要介護 3	要介護 5	0.00**		要介護 4	要介護 5	0.00**
	要介護 4	要介護 5	0.00**				
2回目	非該当	要介護 3	0.00**	4回目	非該当	要介護 3	0.01*
	非該当	要介護 4	0.00**		非該当	要介護 4	0.00**
	非該当	要介護 5	0.00**		非該当	要介護 5	0.00**
	要支援	要介護 1	0.00**		要支援	要介護 1	0.00**
	要支援	要介護 2	0.00**		要支援	要介護 2	0.00**
	要支援	要介護 3	0.00**		要支援	要介護 3	0.00**
	要支援	要介護 4	0.00**		要支援	要介護 4	0.00**
	要支援	要介護 5	0.00**		要支援	要介護 5	0.00**
	要介護 1	要介護 2	0.00**		要介護 1	要介護 2	0.00**
	要介護 1	要介護 3	0.00**		要介護 1	要介護 3	0.00**
	要介護 1	要介護 4	0.00**		要介護 1	要介護 4	0.00**
	要介護 1	要介護 5	0.00**		要介護 1	要介護 5	0.00**
	要介護 2	要介護 3	0.00**		要介護 2	要介護 3	0.00**
	要介護 2	要介護 4	0.00**		要介護 2	要介護 4	0.00**
	要介護 2	要介護 5	0.00**		要介護 2	要介護 5	0.00**
	要介護 3	要介護 4	0.00**		要介護 3	要介護 4	0.00**
	要介護 3	要介護 5	0.00**		要介護 3	要介護 5	0.00**
	要介護 4	要介護 5	0.00**				

表 41 認定時中間評価項目得点（第2群：移動等）の多重比較：有意な差が生じなかった要介護度の組み合わせ

		P			P
初回	非該当 ⇔ 要支援	1.00	3回目	非該当 ⇔ 要支援	1.00
	非該当 ⇔ 要介護 1	0.05		非該当 ⇔ 要介護 1	1.00
2回目	非該当 ⇔ 要支援	1.00	4回目	非該当 ⇔ 要介護 2	0.64
	非該当 ⇔ 要介護 1	1.00		非該当 ⇔ 要支援	1.00
	非該当 ⇔ 要介護 2	1.00		非該当 ⇔ 要介護 1	1.00
				非該当 ⇔ 要介護 2	0.93
				要介護 4 ⇔ 要介護 5	0.30

(3) 中間評価項目得点の推移（第3群：複雑な動作等）

「第3群：複雑な動作等」の中間評価項目得点の平均値は、全体としては、初回は57.3点、2回目は57.4点、3回目は54.4点、4回目は50.4点とであった。初回と2回目はあまり変化がみられず、2回目から3回目、3回目から4回目にかけて漸次、減少する傾向が示された。

また、要介護度別には、初回に非該当であった高齢者は、最初88.6点と高い得点であるが、2回目は63.4点とかなり低くなり、3回目は65.7点と上昇し、さらに4回目で56.6点とかなり低くなっていた。

初回が要支援で得点が80.8点であった高齢者らは、2回目に75.0点とかなり低下し、3回目も71.2点とさらに低下し、4回目は67.0点と漸次、低下していた。

初回が要介護1で67.2点の高齢者らも2回目に64.1点とかなり低下し、3回目も60.6点とさらに低下し、4回目は56.2点と要支援と同様に漸次、低下していた。

初回が要介護2で50.3点を示した高齢者らは、2回目には、51.4点と上昇するが、3回目には48.5点と初回よりも、さらに低下し、4回目は44.1点と低下していた。

初回が要介護3で34.6点の高齢者らは、2回目は41.7点と上昇するが、3回目には39.4点と低下し、4回目にも35.4点と低下していた。

初回が要介護4で14.5点の高齢者らは、2回目は27.8点とほぼ2倍へと上昇するが、3回目には27.6点と低下し、4回目にも25.9点と低下していたが、初回の得点が最も低い得点であった。

初回が要介護5の高齢者は、5.2点とかなり低い得点であった。しかし、2回目には23.5点と、4倍もの得点へ上昇し、さらに3回目も26.4点と上昇していた。4回目は、若干低下し、25.5点となっていたが、初回の得点が最も低い得点であったことは、要介護3、4、5に共通していた。

このように要介護2から5は、すべて初回から2回目にかけて増加し、その後、減少するという傾向が示された。

また認定回時別に要介護度別の中間評価項目得点の比較を一元配置分散分析で分析した結果、初回から4回目の全ての認定で中間評価項目得点に有意な差が見られた。

しかし、要介護別に、得点を比較すると、初回においては、非該当と要支援、2回目においても非該当と要支援、非該当と要介護1、非該当と要介護2の間には有意な差はなかった。3回目においても非該当と要支援、非該当と要介護1、要介護4と要介護5の間には有意な差はなく、4回目においても非該当と要支援、非該当と要介護1、非該当と要介護2、要介護4と要介護5の得点の間には、有意差はなかった。

表 42 中間評価項目得点の経年的推移（第3群：複雑な動作等）

		初回	2回目	3回目	4回目
非該当 (N=23)	平均値	88.6	63.4	65.7	56.6
	標準偏差	16.4	22.7	23.7	28.7
	最小値	29.2	14.3	15.7	1.1
	最大値	100	100	100	90.1
要支援 (N=3,273)	平均値	80.8	75.0	71.2	67.0
	標準偏差	11.9	16.3	18.4	21.1
	最小値	15.7	1.1	1.1	0
	最大値	100	100	100	100
要介護1 (N=5,766)	平均値	67.2	64.1	60.6	56.2
	標準偏差	16.9	19.2	21.0	23.1
	最小値	1.1	0	0	0
	最大値	100	100	100	100
要介護2 (N=3,656)	平均値	50.3	51.4	48.5	44.1
	標準偏差	19.9	21.0	22.7	24.1
	最小値	1.1	0	0	0
	最大値	100	100	100	100
要介護3 (N=2,043)	平均値	34.6	41.7	39.4	35.4
	標準偏差	21.8	22.4	23.2	23.9
	最小値	0	1.1	0	0
	最大値	100	100	100	100
要介護4 (N=1,060)	平均値	14.5	27.8	27.6	25.9
	標準偏差	17.5	22.0	22.8	23.0
	最小値	0	0	0	0
	最大値	100	100	100	90.1
要介護5 (N=335)	平均値	5.2	23.5	26.4	25.5
	標準偏差	8.8	21.8	22.2	23.4
	最小値	0	1.1	0	0
	最大値	51.6	100	100	90.1
合計 (N=16,156)	平均値	57.3	57.4	54.4	50.4
	標準偏差	26.5	24.3	25.0	26.3
	最小値	0	0	0	0
	最大値	100	100	100	100

表 43 認定ごとの中間評価項目得点（第3群：複雑な動作等）の分散分析結果

		平方和	自由度	平均平方	F 値	P
初回	グループ間	6472906.9	6	1078817.8	3570.42	0.00**
	グループ内	4879482.8	16149	302.2	5	
	合計	11352389.7	16155			
2回目	グループ間	3221287.7	6	536881.3	1374.18	0.00**
	グループ内	6309257.0	16149	390.7	6	
	合計	9530544.6	16155			
3回目	グループ間	2759835.1	6	459972.5	1007.23	0.00**
	グループ内	7374711.4	16149	456.7	9	
	合計	10134546.4	16155			
4回目	グループ間	2538959.4	6	423159.9	795.076	0.00**
	グループ内	8594913.3	16149	532.2		
	合計	11133872.6	16155			

表 44 認定ごとの中間評価項目得点（第3群：複雑な動作等）の多重比較：有意な差が生じた要介護度の組み合わせ

		P			P
初回	非該当 ⇔ 要介護 1	0.00**	3回目	非該当 ⇔ 要介護 2	0.00**

図 11 中間評価項目得点の経年的推移（第3群：複雑な動作等）

初回	非該当 ⇔ 要介護 2	0.00**	4回目	非該当 ⇔ 要介護 3	0.00**
	非該当 ⇔ 要介護 3	0.00**		非該当 ⇔ 要介護 4	0.00**
	非該当 ⇔ 要介護 4	0.00**		非該当 ⇔ 要介護 5	0.00**
	非該当 ⇔ 要介護 5	0.00**		要支援 ⇔ 要介護 1	0.00**
	要支援 ⇔ 要介護 1	0.00**		要支援 ⇔ 要介護 2	0.00**
	要支援 ⇔ 要介護 2	0.00**		要支援 ⇔ 要介護 3	0.00**
	要支援 ⇔ 要介護 3	0.00**		要支援 ⇔ 要介護 4	0.00**
	要支援 ⇔ 要介護 4	0.00**		要支援 ⇔ 要介護 5	0.00**
	要支援 ⇔ 要介護 5	0.00**		要介護 1 ⇔ 要介護 2	0.00**
	要介護 1 ⇔ 要介護 2	0.00**		要介護 1 ⇔ 要介護 3	0.00**
	要介護 1 ⇔ 要介護 3	0.00**		要介護 1 ⇔ 要介護 4	0.00**
	要介護 1 ⇔ 要介護 4	0.00**		要介護 1 ⇔ 要介護 5	0.00**
	要介護 1 ⇔ 要介護 5	0.00**		要介護 2 ⇔ 要介護 3	0.00**
	要介護 2 ⇔ 要介護 3	0.00**		要介護 2 ⇔ 要介護 4	0.00**
	要介護 2 ⇔ 要介護 4	0.00**		要介護 2 ⇔ 要介護 5	0.00**
	要介護 2 ⇔ 要介護 5	0.00**		要介護 3 ⇔ 要介護 4	0.00**
	要介護 3 ⇔ 要介護 4	0.00**		要介護 3 ⇔ 要介護 5	0.00**
	要介護 3 ⇔ 要介護 5	0.00**			
	要介護 4 ⇔ 要介護 5	0.00**			
	2回目	非該当 ⇔ 要介護 3		0.00**	非該当 ⇔ 要介護 3
非該当 ⇔ 要介護 4		0.00**	非該当 ⇔ 要介護 4	0.00**	
非該当 ⇔ 要介護 5		0.00**	非該当 ⇔ 要介護 5	0.00**	
要支援 ⇔ 要介護 1		0.00**	要支援 ⇔ 要介護 1	0.00**	
要支援 ⇔ 要介護 2		0.00**	要支援 ⇔ 要介護 2	0.00**	
要支援 ⇔ 要介護 3		0.00**	要支援 ⇔ 要介護 3	0.00**	
要支援 ⇔ 要介護 4		0.00**	要支援 ⇔ 要介護 4	0.00**	
要支援 ⇔ 要介護 5		0.00**	要支援 ⇔ 要介護 5	0.00**	

要支援	⇔	要介護 5	0.00**	要介護 1	⇔	要介護 3	0.00**
要介護 1	⇔	要介護 2	0.00**	要介護 1	⇔	要介護 4	0.00**
要介護 1	⇔	要介護 3	0.00**	要介護 1	⇔	要介護 5	0.00**
要介護 1	⇔	要介護 4	0.00**	要介護 2	⇔	要介護 3	0.00**
要介護 1	⇔	要介護 5	0.00**	要介護 2	⇔	要介護 4	0.00**
要介護 2	⇔	要介護 3	0.00**	要介護 2	⇔	要介護 5	0.00**
要介護 2	⇔	要介護 4	0.00**	要介護 3	⇔	要介護 4	0.00**
要介護 2	⇔	要介護 5	0.00**	要介護 3	⇔	要介護 5	0.00**
要介護 3	⇔	要介護 4	0.00**				
要介護 3	⇔	要介護 5	0.00**				
要介護 4	⇔	要介護 5	0.01*				

表 45 認定ごとの中間評価項目得点（第3群：複雑な動作等）の多重比較：有意な差が生じなかった要介護度の組み合わせ

			P				P
初回	非該当	要支援	0.68	3回目	非該当	要支援	1.00
2回目	非該当	要支援	0.11	4回目	非該当	要介護 1	1.00
	非該当	要介護 1	1.00		要介護 4	要介護 5	1.00
	非該当	要介護 2	0.08		非該当	要支援	0.68
				非該当	要介護 1	1.00	
				非該当	要介護 2	0.20	
				要介護 4	要介護 5	1.00	

(4) 中間評価項目得点の推移（第4群：特別な介護等）

「第4群：特別な介護等」の中間評価項目得点の平均値は、全体としては、初回は92.0点、2回目は、91.9点、3回目は90.1点、4回目は86.9点と他の群の中間評価項目得点に比較するとかなり高い得点であった。得点の経年的変化の推移としては、初回と2回目はあまり変化がみられず、2回目から3回目、3回目から4回目にかけて漸次、減少する傾向が示された。

また要介護度別には、初回に非該当であった高齢者は、最初99.9点とかなり高い得点であるが、2回目は97.4点、3回目は96.0点、さらに4回目で93.5点と漸次低下していた。

初回に要支援であった者の平均値は、初回は98.8点、2回目は、98.0点、3回目は97.0点、4回目は95.1点と初回から4回目にかけて少しずつ低下していたが、高い得点を示していた。

初回が要介護1の場合も97.2点と高い得点で、2回目95.6点、3回目94.0点、4回目90.9点と示され、認定毎に低下はしているが、全体に高い得点であった。

初回が要介護2の場合も、92.6点と高い得点で、2回目91.1点、3回目88.0点、4回目84.1点と要介護1と同様に、認定回数が増加するにしたがって、得点は低下していた。

初回が要介護3の初回の得点は、83.6点と比較的、高かった。2回目は84.6点と上昇し、3回目82.3点と低下し、4回目も78.2点と低下が続いていた。

初回が要介護4の者は、68.7点と要介護3よりもかなり低かったが、2回目76.4点と上昇していた。3回目は、75.2点と低下し、4回目も71.4点と低下していた。

初回が要介護5のものは、52.6点とかなり低かったが、2回目は71.9点と上昇し、3回目も74.1点と続けて上昇していた。4回目は70.9点と低下するが、初回に比較するとかなり高かった。

このように要介護4と5の高齢者は、初回の点数がかなり低く、2回目に大きく得点が増えることが特徴であった。また、3回目から4回目にかけては、再び、低下していた。

さらに、認定時点別に要介護度別の中間評価項目得点を一元配置分散分析で解析した結果、初回から4回目の全ての認定で中間評価項目得点に有意な差が見られた。

しかし、要介護度別に得点を比較すると、初回においては、非該当と要支援、非該当と要介護1、2回目においても非該当と要支援、非該当と要介護1、非該当と要介護2の間には有意な差はなかった。3回目においても非該当と要支援、非該当と要介護1、非該当と要介護2、要介護4と要介護5の間には有意な差はなく、4回目においても非該当と要支援、非該当と要介護1、非該当と要介護2、要介護4と要介護5の得点の間には、有意差はなかった。このことは、第3群とほぼ同じ傾向が示されていたといえよう。

表 46 中間評価項目得点の経年的推移（第4群：特別な介護等）

		初回	2回目	3回目	4回目
非該当 (N=23)	平均値	99.9	97.4	96.0	93.5
	標準偏差	0.6	3.6	10.6	12.3
	最小値	97.3	86.2	61	47.4
	最大値	100	100	100	100
要支援 (N=3,273)	平均値	98.8	98.0	97.0	95.1
	標準偏差	2.8	5.0	7.2	11.1
	最小値	72.7	12.8	12.1	8.7
	最大値	100	100	100	100
要介護1 (N=5,766)	平均値	97.2	95.6	94.0	90.9
	標準偏差	4.4	7.7	10.3	15.0
	最小値	52.5	9.6	3.6	0
	最大値	100	100	100	100
要介護2 (N=3,656)	平均値	92.6	91.1	88.0	84.1
	標準偏差	8.4	11.3	15.0	18.7
	最小値	39.4	12.3	17	3.6
	最大値	100	100	100	100
要介護3 (N=2,043)	平均値	83.6	84.6	82.3	78.2
	標準偏差	14.3	16.5	18.5	21.8
	最小値	30.7	18.8	9.6	0
	最大値	100	100	100	100
要介護4 (N=1,060)	平均値	68.7	76.4	75.2	71.4
	標準偏差	18.7	20.6	21.5	23.9
	最小値	21.5	11.9	12.1	3.6
	最大値	100	100	100	100
要介護5 (N=335)	平均値	52.6	71.9	74.1	70.9
	標準偏差	18.4	21.6	22.3	24.0
	最小値	12.3	12.3	12.3	8.7
	最大値	97.3	100	100	100
合計 (N=16,156)	平均値	92.0	91.9	90.1	86.9
	標準偏差	13.3	13.0	15.1	18.6
	最小値	12.3	9.6	3.6	0
	最大値	100	100	100	100

表 47 認定ごとの中間評価項目得点（第4群：特別な介護等）の分散分析結果

		平方和	自由度	平均平方	F 値	P
初回	グループ間	1548580.7	6	258096.8	3232.179	0.00**
	グループ内	1289533.9	16149	79.9		
	合計	2838114.7	16155			
2回目	グループ間	703094.7	6	117182.5	925.2652	0.00**

	グループ内	2045229.2	16149	126.6		
	合計	2748323.9	16155			
3回目	グループ間	706845.1	6	117807.5	641.556	0.00**
	グループ内	2965405.6	16149	183.6		
	合計	3672250.7	16155			
4回目	グループ間	835874.5	6	139312.4	474.4518	0.00**
	グループ内	4741801.6	16149	293.6		
	合計	5577676.0	16155			

表 48 認定ごとの中間評価項目得点（第4群：特別な介護等）の多重比較：有意な差が生じた要介護度の組み合わせ

			P				P		
初回	非該当	⇔	要介護 2	0.00**	3回目	非該当	⇔	要介護 3	0.00**
	非該当	⇔	要介護 3	0.00**		非該当	⇔	要介護 4	0.00**
	非該当	⇔	要介護 4	0.00**		非該当	⇔	要介護 5	0.00**
	非該当	⇔	要介護 5	0.00**		要支援	⇔	要介護 1	0.00**
	要支援	⇔	要介護 1	0.00**		要支援	⇔	要介護 2	0.00**
	要支援	⇔	要介護 2	0.00**		要支援	⇔	要介護 3	0.00**
	要支援	⇔	要介護 3	0.00**		要支援	⇔	要介護 4	0.00**
	要支援	⇔	要介護 4	0.00**		要支援	⇔	要介護 5	0.00**
	要支援	⇔	要介護 5	0.00**		要介護 1	⇔	要介護 2	0.00**
	要介護 1	⇔	要介護 2	0.00**		要介護 1	⇔	要介護 3	0.00**
	要介護 1	⇔	要介護 3	0.00**		要介護 1	⇔	要介護 4	0.00**
	要介護 1	⇔	要介護 4	0.00**		要介護 1	⇔	要介護 5	0.00**
	要介護 1	⇔	要介護 5	0.00**		要介護 2	⇔	要介護 3	0.00**
	要介護 2	⇔	要介護 3	0.00**		要介護 2	⇔	要介護 4	0.00**
	要介護 2	⇔	要介護 4	0.00**		要介護 2	⇔	要介護 5	0.00**
	要介護 2	⇔	要介護 5	0.00**		要介護 3	⇔	要介護 4	0.00**
	要介護 3	⇔	要介護 4	0.00**		要介護 3	⇔	要介護 5	0.00**
	要介護 3	⇔	要介護 5	0.00**		4回目	非該当	⇔	要介護 3
要介護 4	⇔	要介護 5	0.00**	非該当	⇔		要介護 4	0.00**	
2回目	非該当	⇔	要介護 3	0.00**	非該当		⇔	要介護 5	0.00**
	非該当	⇔	要介護 4	0.00**	要支援		⇔	要介護 1	0.00**
	非該当	⇔	要介護 5	0.00**	要支援		⇔	要介護 2	0.00**
	要支援	⇔	要介護 1	0.00**	要支援		⇔	要介護 3	0.00**
	要支援	⇔	要介護 2	0.00**	要支援		⇔	要介護 4	0.00**
	要支援	⇔	要介護 3	0.00**	要支援		⇔	要介護 5	0.00**
	要支援	⇔	要介護 4	0.00**	要介護 1		⇔	要介護 2	0.00**
	要支援	⇔	要介護 5	0.00**	要介護 1		⇔	要介護 3	0.00**
	要介護 1	⇔	要介護 2	0.00**	要介護 1		⇔	要介護 4	0.00**
	要介護 1	⇔	要介護 3	0.00**	要介護 1		⇔	要介護 5	0.00**
	要介護 1	⇔	要介護 4	0.00**	要介護 2		⇔	要介護 3	0.00**
	要介護 1	⇔	要介護 5	0.00**	要介護 2		⇔	要介護 4	0.00**
	要介護 2	⇔	要介護 3	0.00**	要介護 2		⇔	要介護 5	0.00**
	要介護 2	⇔	要介護 4	0.00**	要介護 3		⇔	要介護 4	0.00**